

事例紹介「北陸新幹線開業に向けた金沢市の取り組み」

登壇者：金沢市都市政策局担当次長 企画調整課長 本島 一二氏

<講演要旨>

北陸新幹線における金沢開業に向けた取組み、昨年3月に敦賀まで延伸した際の実施状況をお話したい。

まず、北陸新幹線の沿革については、北陸新幹線は昭和48年に整備計画が決定したが、それより前の昭和42年には、すでに地元のほうで「北回り新幹線建設促進同盟会」を結成していた。それ以降は平成9年、長野オリンピックに先行して長野行新幹線が開業した。その時はフル規格ではなく、スーパー特急で暫定の状態で計画が進んでいた。それにも関わらず、平成4年に新幹線金沢駅を建設している。その後、平成12年にフル規格での整備が進み、平成27年に長野―金沢間が整備された。開業年が判明した後、平成19年に金沢市は「金沢魅力発信行動計画」を策定した。開業効果を最大限に生かす施策の体系的な取りまとめに取り組んだ。特徴としては、予算編成方針の要求基準に特別枠を設けており、新幹線開業に向けた予算は、シーリングなく、そのまま要求してもいいというルールを設けた。

施策の柱は6つある。

1つ目は「金沢が培ってきた文化の継承・活用・育成」。歴史遺産の文化財指定の推進として、加賀藩主前田家墓所や辰巳用水などが国の指定を受けた。辰巳用水の下流は兼六園にある日本最古の噴水に繋がっている。また、金沢市は、重要伝統的建造物群保存地区として5地区が指定を受けている。その数は、京都について2番目に多い。加えて、伝統芸能・文化等の魅力向上にも取り組んでいる。小鼓や笛などを演奏する「金沢素囃子（すばやし）」や能、茶の湯文化の魅力向上に努めた。なお、金沢市は、平成21年6月にユネスコ・クラフト創造都市に認定を受けており、一定の評価をいただいている。

2つ目は「豊かな都市環境の維持・活用」。金沢は日本一景観に厳しい街と言われている。屋外広告の規制強化や建築物の高さ制限を高度地区の指定によって行っているほか、無電柱化の推進に取り組んでいる。中心市街地の沿道に花を飾るなどして、美しい都市景観を守っている。また、金沢には、55本、総延長約150kmの用水が流れており、昔は用水の上に蓋をかけて、駐車場として利用していたが、新幹線の開業に合わせて開渠化していった。食文化の魅力向上として、金沢の郷土料理や食材について情報発信しており、金沢の食文化の特徴としては、食材だけでなく、器、そして設えを含めて食文化としているところにある。金沢食文化フェスタを開催し、市民の方に食文化に触れてもらったり、食文化の向上に貢献した方への表彰を行ったりしている。

3つ目は「まちなかにぎわい創出・ものづくり基盤の強化」。まちなかの賑わい創出として、都市部の再開発を行っている。新幹線開業に向けて実施したもの、かつて行った再開発の

再々開発などがある。にぎわい創出は▽世界のアーティストが金沢に集う「ガルガンチュア音楽祭」▽百万石行列で有名な「百万石まつり」▽全国のアカペラグループが集う「金沢アカペラ・タウン」▽ジャズの祭典「金沢 JAZZ STREET」|などを開催。スポーツ文化の振興に向け、「金沢マラソン」を開催しているほか、新たなスポーツ交流拠点として令和6年に1万人規模の「金沢スタジアム」を整備した。そのほか、学術・コンベンション機能の強化を実施した結果、さらに国際的な催事の開催を実現した。ものづくり基盤の強化を行い、伝統工芸の発展に取り組んでいる。

4つ目は「金沢駅・二次交通の利便性の向上」。兼六園や金沢21世紀美術館、茶屋街といった観光名所を回るシャトルバスの運行、レンタサイクルの拡充に取り組んでいる。

5つ目は「プロモーションの強化」。欧州の富裕層や高松市など友好交流協定を結んでいる都市に対して、観光客の誘客促進に力を入れている。

6つ目は「市民との協働による『もてなし力』の強化」。観光客の受け入れ態勢を強化するため、平成20年に「新幹線対応金沢市民会議」を設置し、ボランティアガイドによるおもてなし、インバウンド向けのボランティアガイド、高校生によるまちなかガイドを行っている。また、新幹線開業効果を周辺の市町にも広げていこうと「新幹線金沢駅周辺地域連絡会」を発足し平成20～26年度まで活動し、観光物産展や観光PRを行った。今もその流れを汲んで、広域観光の旅行商品の開発も合同で行っている。

このほか、昭和54年に北信越市長会加盟市で組織された「新幹線関係都市連絡協議会」では新幹線建設に係る情報交換と中央要望を実施した。また、平成22年度に「北陸新幹線開業により懸念される影響対策会議」を発足。東北新幹線など先行開業した都市の問題点に着目し、事業所数の推移から企業の流出状況、宿泊客の推移から宿泊客割合の減少状況を調査し、対策と提案を行っている。

北陸新幹線の金沢開業を機に、観光入込客数は大幅に増加した。交流人口も大きく拡大し、経済効果が生まれた一方、▽週末の宿泊料金の高騰▽一部の施設に観光客が集中することによる「金沢らしさ」の喪失の懸念▽ポイ捨てや交通混雑の発生|などの問題点も浮かび上がった。これらに関しては、▽観光の分散化▽商店街などによるマナーアップの取り組み▽魅力的なまちづくりにつながる仕組みとして「宿泊税」の導入|などで対応している。これまでの取り組みの結果として、市区町村魅力度ランキング6位、日本の都市特性評価で7位となった。また、新幹線開業前にミシュランやニューヨークタイムズに取り上げられるまでになった。現在も、金沢・敦賀開業により関西圏や中京圏からの観光誘客に向けたプロモーションを行っているほか、広域観光連携の推進に向けて、北陸3都市（金沢市、富山市、福井市）で連携した取り組みなどを行っている。